



桃一通信

No. 6 5 8

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和3年 11月号



みんなのしあわせを創る杉並の教育

校長 高橋 浩平

秋も深まってまいりました。先月のモモリンピックは、無事終わりました。10月18日(月)～20日(水)にかけては、6年生が南伊豆の移動教室に行ってきました。昨年度の移動教室は中止だったので、小学校生活最初で最後の移動教室となりました。弓ヶ浜ではなく子浦地区での活動でしたが、浜でのサンドアートや魚釣り、海上でのカッター体験、ハイキングなど、多くの体験をしました。思い出深い移動教室になったのではないかと思います。

さて、杉並区教育委員会では「教育ビジョン2022(案)」を策定しました。現行の「教育ビジョン2012」である「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」から「みんなのしあわせを創る杉並の教育」がスローガンとなります。以下、「教育ビジョン2022(案)」の一部です。

人は誰もが、しあわせになりたいという願いをもっています。

自分が描いた夢や目標に向かって努力し続けることや、そこで得た成果を他者と共有したり、「ありがとう」という言葉を通して誰かの役に立っていることを実感したりすることによって、人は生きがいを感じ、そうした過程そのものが一人ひとりのしあわせとつながっています。区民アンケートにおいて、子どもたちから最も多く寄せられた「うれしくてがんばろうと思える一言」は「ありがとう」でした。

誰もが自分らしく生きることを大切にしながら、将来を見通しにくい社会の中で、みんなのしあわせを創るためには、一人ひとりが当事者として共に認め合いながら、協力して社会を創り、担うこと、そして、それを支える教育が大切です。

そのためには、誰もが等しく学びの機会を得られる「すべての人に教育を」(Education for All)という基礎の上に、共に学び合い、教え合い、かかわり合って、新たな価値を創り出していくための「みんなが共に教育を創る」(Education by All)という考え方が欠かせません。

こうした観点から、私たちが大切にしたい教育として「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を掲げます。

そして、○学び合い、信頼をつくり、共に生きる○ちがいを認め合い、自分らしく生きる○誰もが社会の創り手として生きる、の3つを尊重しています。また、「一人ひとりが教育の当事者として心がける視点」として①子どもの思いを尊重する②ちがいを受け入れる③対話を大切にする④学びの成果を贈り合う⑤社会を創る当事者として考える、の5つを掲げています。

どの場面でビジョンを生かし「どのような教育を進めるか」ということは書かれていないので、現場の教員や保護者、地域の方々、当事者である子どもたちが考えていく必要があると思います。学校運営協議会では、CS委員の皆さんに「教育ビジョン2022(案)」について意見を出してもらい、議論しています。また先生方にも「教育ビジョン2022(案)」を読んでもらい、感想などを聞いています。来年度の桃一小的の教育活動では「教育ビジョン2022(案)」が土台となるので、様々な意見を聞き入れ、具体的な教育活動を詰めていこうと思います。

11月18日～20日は学習発表会です。今年度はコロナ禍のため、桃一劇場は行いません。できるだけ密を避け、発声時にはマスクをつけ、人数を制限し、換気を徹底していきたいと思います。制限のある中での開催ですが、保護者の皆様のご参観をお待ちしています。

4年生の取り組み

～様々な教科と学びを繋げて～

4年生では、総合的な学習の時間のテーマを「くらし〇わたし〇人＝（＾＾）」としています。一見、どんな意味があるのかわからないテーマですが、行事で体験したことや、日頃の教科の学びも繋げて考えることで、人それぞれに様々な解釈ができる楽しさがあります。



2学期では、運動会で使用する「鳴子」について調べることを通して、祭りとテーマとの関わりについて考えていきました。「鳴子の材料である『ヒノキ』は高知県の特産物だったから、くらしと結びついて、祭りの笑顔に繋がるんだよ。」「よさこい祭りは、戦後の暗い気持ちを明るくしたい願いがあったから、わたしも、人も繋がって笑顔になるってことじゃない？」と、調べたことをもとに、テーマとの関連性について話し合いました。鳴子が使われる「よさこい祭」の歴史や、鳴子の素材や起源を調べるうちに、祭に込められた願いや受け継ぐ人々の思いに気付くことができました。その思いを感じた上で、モモリンピックの表現を行うことができました。

その後の社会科「受け継がれる祭り」の学習では、これまでの学びや子供たち自身が表現したモモリンピックでの体験と繋げて、学習を深めています。先日行われた、伝統文化体験授業では、「高円寺の阿波踊り」について教わりました。国語科「世界にほこる和紙」では、読み取りを通して、長い間親しまれてきた伝統工芸の良さについて考えています。また、総合的な学習の時間では、他の都道府県に存在する受け継がれた祭について、各クラスで調べたことをもとに表現する方法を考えています。



受け継がれてきた物や行事を知ることを通して、人々の未来を願う気持ちがあり、自分たちもそれを受け継ぐ存在であるということ子供たちに感じてもらえるよう、様々な学びへ繋げて指導を進めていきたいと思っています。